

木材利用 100%をめざして

林業の現場では針葉樹の枝葉は使い道が少なく、現場に放置されることがほとんどです。これを有効利用したいと考え、クリスマスオーナメントのワークショップを企画しました。藤岡市鬼石地区で毎月開催されている「朝市」に地域おこし協力隊として出店するかたちで開催することができました。木をあますところなく活用することが付加価値の向上に寄与し、山林の活用に関心を持つ人が少しでも増えたいと願っています。



おうちでも簡単！ キコリのオーナメント



材料集め

新鮮なスギやヒノキの枝葉を集めます。切り倒してすぐの新しいものと長持ちします。



飾り選び

100均等で飾りを購入します。拾った松ぼっくりやナンテンがあると最高。



つくる

ホットボンドで飾りを張り付けたり、リボンを巻いたりして枝葉を飾ります。



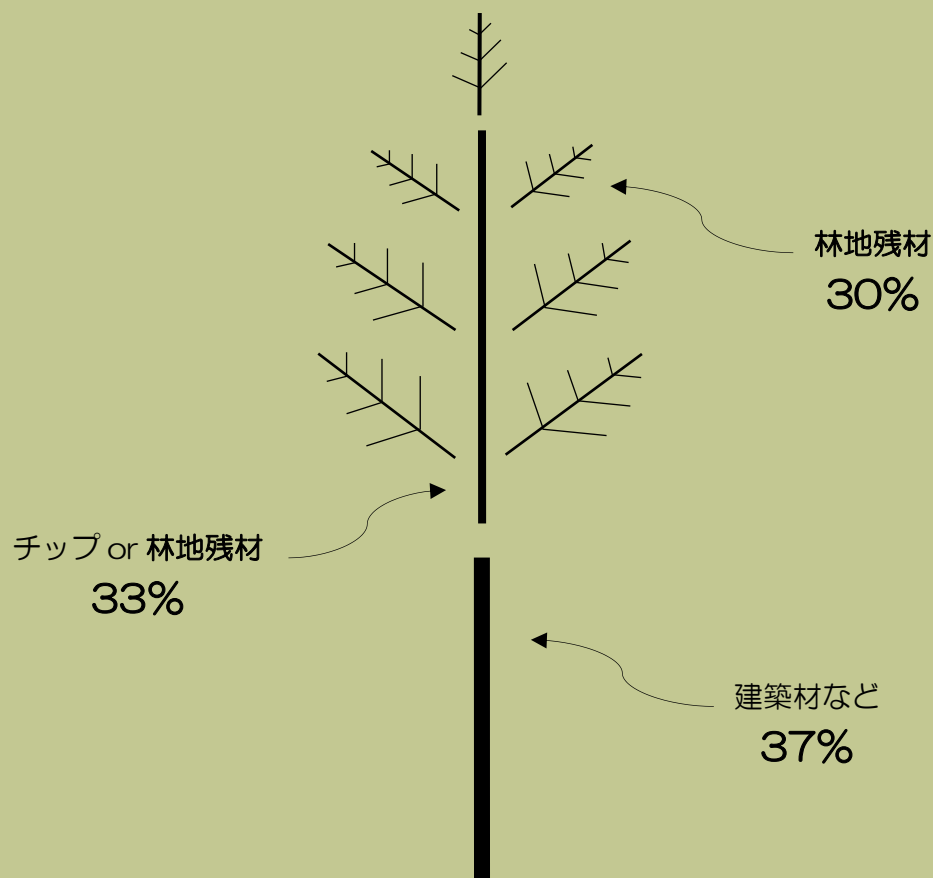
完成！

ワークショップ開催のきっかけは林業の現場で知ったことでした。

切った木の**6割以上**は捨てられていること。

これまでの木材販売では1本の木からとられる製材品はたった37%です。

それ以外の**63%**はチップ材として燃やされるか、**林地残材**として山の中に捨てられます。



少しの林地残材は生物のえさとなり、土の養分になるのでよいこともあります。

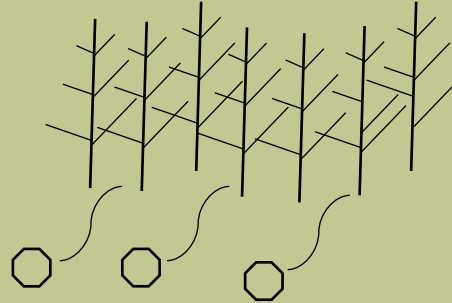
しかしスギやヒノキの枝葉は分解に時間がかかります。

枯葉が土に被っていると下層植生（小さな植物）が育たなくなり、**弱い地面**になります。

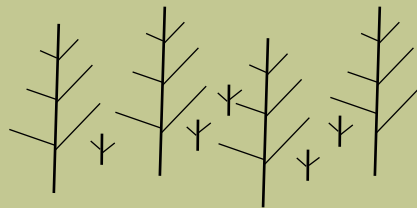
土砂崩れなどの天災による被害を拡大させる恐れがあります。

木を切らないのも危険です。

間伐（抜き切り）しない山は暗く、植物があまり育たないため弱い地面になります。



適度に間伐することで強い、美しい山になります。



森林は生きています。

適度に人の手を入れ、管理をしなければなりません。

手間はかかりますが森林は私たちの暮らしに多くのメリットを与えてくれます。



地域おこし協力隊の活動と日常、
イベント出店情報は SNS から！

長谷川 隆春

北海道出身。秋田県で公務員として林業に携わり、関心をもつ。令和4年8月に藤岡市に移住し、林業振興分野の地域おこし協力隊として現場を中心に林業、木材を勉強中。